



# 志木四小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○やりぬく子 ○元気な子

志木市立志木第四小学校

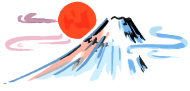
令和2年度 No 10

令和3年 1月6日

志木市館1丁目4番1号

TEL 048 - 474 - 7911

児童数1月1日現在 445名



## 楽しさの先にあるもの

志木市立志木第四小学校長 可知良之

突然の事態に翻弄させられた令和2年が終わりと新たな年を迎えました。新年おめでとうございます。今年は初詣にも行けませんでした。1日も早く穏やかな日常が戻ってくることを願いました。学校も今日から第3学期が始まります。「今日1日が楽しく、明日が待ち遠しいと思える学校」づくりの仕上げの学期です。コロナ禍で例年通りとはいかなかったことも多かったですが子どもたちはどう思っていたのでしょうか。12月に児童アンケート調査を行いました。まず、学校は楽しいですかの質問に対し、そう思うと答えた子は67.6%、どちらかといえばそう思う26.9%、合計すると94.5%の子は学校が楽しいと答えていました。昨年同様の数値に少し安堵しました。

どのような時が楽しかったのか追跡調査をみると、第1位は休み時間でした。コロナ禍だからこそ学校生活の中で友達と自由に過ごせる休み時間は、心のやすらぎを得られる貴重な時間なのだと思います。楽しい時の第2位は授業でした。約半数の子どもが授業が楽しかったと答えてくれたことは教師冥利に尽きます。1学期はほとんど授業らしい授業をさせてもらえませんでしたので、2学期は毎日の授業を大切に、わかりやすく楽しい学習を工夫しました。座学中心の授業から学び合いによる協働での学習に少しずつ変えていくことで学習本来の楽しさを味わうことができたのではないかと思います。聞いたことはすぐ忘れてしまいましたが見たことは頭に入りやすいといいま

す。大型テレビを使つての学習も、わかりやすい授業づくりに一役買ったかもしれません。更に、実際にやったことは身に付くといえます。制限はありましたが、できる限り体験活動を取り入れたことで学びの楽しさを十分味わえたと思います。そして、わかる、できるまで徹底したことが学びの質を向上させました。宿題など家庭学習による効果も大きかったと考えます。

学校が楽しいときの少数派意見の中で、どの学年にも入っていたものが1つだけありました。給食です。コロナ対策のため、全員が黒板向きで会話は一切なし。対面を避けるため先生までも黒板を向いているクラスもありました。それでも、この時間を楽しみにしている子どもたちがいることに切なさを感じます。楽しくない時の少数意見の中に、ひとりでいるときと答えた子がいました。やはり学校は人とのふれ合いが最も大切なのだと感じさせられます。

子どもたちにとって楽しいとは、単に面白おかしいといったことではなく、学びに向かう力にあふれた状態を指すのではないのでしょうか。子どもたちは好奇心のかたまりです。楽しそう。やってみよう。ちょっと難しいぞ。でも頑張ったらできた。こうした学びのサイクルが学びに向かう力を一層伸ばし、より深い学びにつながっていく。コロナ禍の時代だからこそ、学ぶ意欲にあふれ、自分から楽しさを生み出していける子どもたちを育てていきたい。新年に際し決意を新たにいたしました。今学期もどうぞよろしくお願ひします。